

1. 木質バイオマス関連情報

■(一社)バイオマスボイラ工業会(東京)、4月1日に発足。5月31日に設立総会開催。日本ではバイオマスボイラの性能評価の基準が無く、各社が輸入品の欧州での規準をコピーしたり化石燃料ボイラの性能表示を変換している状況であり、これが熱利用を主とするバイオマスボイラの普及が伸び悩む原因の一つとなっている。同工業会は国内でのバイオマスボイラの規格の公的基準を構築し、ユーザーが安心してバイオマスボイラを採用し、正しい取扱い方法で活用できる環境作りを進めたいとして設立。規格に関する調査研究、作成及び普及活動以外にも、生産、販売及び使用に関する調査統計や施策の提言等、バイオマスボイラに関わる様々な事業を行っていきとしている。代表理事は、(株)トモエテクノ(東京)会長の岡本利彦氏

【(一社)バイオマスボイラ工業会：2024/04/01】

<https://www.j-bba.org/index.html>

■綿半ホールディングス(株)(長野)完全子会社の征矢野建材(株)(長野)が、ドイツのドップシュタット社製大型破砕機AK640Kを導入したと発表。征矢野建材は、長野県や長野県塩尻市と連携して森林資源活用を目指す「信州F・パワープロジェクト」の中核企業。ソヤノウッドパワー(長野)が操業し、14.4万t/年(18万m³)のチップを必要とする木質バイオマス発電所への燃料チップ供給を担う。AK640Kは伐採・造材した際に発生する枝葉や幹の末端部分(短コロ)といった林地残材でも均質なチップとして破砕可能。従来の切削タイプの機械では小石や異物による故障、品質不良による発電所での詰まり等投入の手間がかかっていたが、AK640Kは多少の小石等異物への対応も可能で、品質は均一化、従来の15倍の破砕速度を誇る。10万tにとどまっていたチップの供給力を12万tに引き上げ、不足するチップ量の半分程度が賅える見通し。さらに林業事業者と連携し、6月中旬以降、林地残材を収集するために長野県内各地にコンテナを設置。林業事業者がコンテナに投入した林地残材をソヤノウッドパークに輸送し、燃料用チップに加工する。征矢野建材は6月1日付で「綿半建材(株)」へと社名変更【信濃毎日新聞：2024/05/25、綿半ホールディングス(株)：

2024/05/24、PR TIMES：2024/05/31】

<https://www.shinmai.co.jp/news/article/CNTS2024052500116>

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/3199/tdnet/2447889/00.pdf>

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000210.000047889.html>

■バイオマス発電のTJグループホールディングス(株)(大阪)、関西一円に燃料の調達網構築へ。都市部の建設現場や公園から木質廃棄物を集めてチップに加工。その拠点を2030年をメドに現在の1カ所から4カ所に増加。電力は廃棄物の発生元である企業や自治体に販売し、「地産地消」を目指す【日本経済新聞：2024/05/27】

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUF2486R0U4A420C200000/>

■日本中央競馬会(東京)は5月27日、今年もレース運営に必要な電力をバイオマス由来の電力で全量賅う「クリーンエネルギー競馬」を東京競馬場、京都競馬場、札幌競馬場で開催すると発表。「クリーンエネルギー競馬」は、太陽光・風力・バイオマス・水力などの再生可能エネルギーで発電された電力の環境価値を「グリーン電力証書」で受け取る(購入する)ことで、証書記載の電力量分の消費電力がCO₂排出量ゼロとみなされる仕組みを利用し、特定開催日の競馬場の使用電力をすべてクリーンエネルギーでまかない、CO₂の削減を図るもの。2022年から毎年実施しており、2022年は約54t、2023年は約241tのCO₂を削減。今年は6月1日(土)、6月2日(日)の東京競馬場・京都競馬場、8月31日(土)、9月1日(日)の札幌競馬場の3競馬場で実施する予定【リム情報開発(株)、日本中央競馬会：2024/05/27】

<https://www.rim-intelligence.co.jp/news/rre/1773345.html>

<https://jra.jp/company/social/environment/cleanenergy/>

■大建工業(株)(大阪)、床材や室内ドアなど木質素材を使用する主要製品の一部に含まれる炭素貯蔵量(CO₂換算)を、製

品カタログと Web サイト上で開示したと発表。製品の情報開示と併せて、木質製品の使用による効果をユーザーに分かりやすく伝えるため、住宅一棟をモデルケースにした炭素貯蔵量の総量も算出。延べ面積 115 m²の 2 階建て戸建て住宅を想定し、大建工業の床材やドア、造作部材、収納などの製品をもとに試算した結果、炭素貯蔵量の総量は約 2372kg-CO₂ (2024 年 5 月時点) となった。環境貢献度の可視化を通じて、木質製品の積極的な使用を呼び掛けていく【BUILT：2024/05/27】

<https://built.itmedia.co.jp/bt/articles/2405/27/news065.html>

■山洋電気（株）（東京）、様々な再生可能エネルギーで使用できる世界初のパワーコンディショナ「SANUPS（サナップス）W83A」を開発。太陽光、風力、水力、バイオマス、廃熱利用などの再生可能エネルギーの発電電力を、適切な電力制御によって無駄なく最大限に利用可能。蓄電池と組み合わせることで、電力需要が急増するピーク時に蓄電池から電力を供給でき、電力の安定供給にも貢献できるとする。連携出力容量は 49.9 kW、自立出力容量は 50kVA。受注開始は 2024 年 6 月 3 日から【山洋電機（株）：2024/05/28】

https://www.sanyodenki.co.jp/products/product_news/2024/20240528_sanups_w83a.html

■大分県日田市、1 月 25 日に開始し 7 月 1 日から入札を受け付ける予定だったごみ焼却施設「新清掃センター」建設の公告をやり直しへ。現在生ごみや豚ふん尿を処理している「バイオマス資源化センター」は老朽化しており、過去 2 回爆発事故を起こしたこともあり 2026 年度を目途に廃止する予定となっている。市は 2015 年度から同センター廃止と代替処理策の検討を続け、廃棄物処理を担う市内 3 施設の機能を統合して豚ふん尿などをバイオマス発電に活用する構想「地域資源リサイクルシステム」を掲げてきた。生ごみと豚ふん尿は下水道終末処理場「浄化センター」に隣接するし尿・浄化槽汚泥処理施設「環境衛生センター」で受け入れる計画だったが今年 3 月、外部の試算でそれらを処理するための施設改修費が 56 億円、年間維持費が 1 億 5 千万円かかることが判明。構想を見直し、生ごみは新清掃センターに焼却機能を追加、豚ふん尿は各養豚業者で処理するという新たな方向性を打ち出した。入札条件に変更が生じるため入札公告をやり直しし、2025 年 2 月に再度公告。新センターの運営開始は 2028 年 1 月から 2029 年 4 月に遅れる見通し【大分合同新聞：2024/05/29】

<https://www.oita->

[press.co.jp/1010000000/2024/05/29/JDC2024052200582](https://www.oita-press.co.jp/1010000000/2024/05/29/JDC2024052200582)

■兵庫県、兵庫県森林組合連合会（兵庫、以下「県森連」）に貸し付けたまま回収が困難となっていた約 9 億円のうち、6 億 3,000 万円を債権放棄する方針を決め、6 月の県議会に議案提出へ。県森連は 2016 年に運開した関西電力（株）（大阪）子会社の（株）関電エネルギーソリューション（大阪）が運営する朝来バイオマス発電所に未利用材から加工した燃料用チップを供給していた。事業は当初から赤字だったが、近くに大型の木質バイオマス発電所が稼働したことやウッドショックの影響もあり、赤字が急拡大。発電所は 2022 年 12 月に稼働停止に追い込まれ、2022 年度の県の貸付金約 9 億円が未返済のままに。県森連は 2022 年 11 月に県や朝来市、関電側を相手取って大阪地裁に特定調停を申し立て、今年 5 月に県森連の弁済計画案に基づく調停案が示された。約 9 億 900 万円の債権のうち、県森連が朝来市にある木材チップ工場や神戸市中央区の県林業会館などを売却して捻出する約 2 億 7,300 万円の返済を受け、残る債権を放棄するというもので、県は調停案を受け入れる方針。債務整理後、県森連は解散する【サンテレビ NEWS：2024/05/29、読売新聞：2024/06/04】

<https://www.sun->

[tv.co.jp/suntvnews/news/2024/05/29/78641/](https://www.sun-tv.co.jp/suntvnews/news/2024/05/29/78641/)

<https://www.yomiuri.co.jp/local/kansai/news/20240604-OY01T50038/>

■能代森林資源利用協同組合（秋田）が 4 月下旬、FIT バイオマス発電所の操業を停止。発電所で製造した森林資源の熱エネルギーの利用先のアキモクボード（株）（秋田）が自主廃業することに伴うもの。梱包材や家具部材などに使うハードボードや畳の芯材といった製品を生産するアキモクボードの年間売上高がコロナ渦で半減したほか、住宅着工の減少等で市場が縮小したことが響いた。発電所は全国に先駆けて 2003 年 2 月より稼働しており、最大出力は 3,000kW。2013 年に FIT 認定を受け、売電も行ってた【OSR No.610：2024/05/29、北羽新報社：2024/05/08】

<https://www.hokuu.co.jp/?p=18521>

■愛媛県、「とべもり+（プラス）」エリアを対象にバイオマス発電設備等を導入するため、調査・設計業務の委託先を公

募。「とべもり+（プラス）」エリアとは、えひめこどもの城、とべ動物園、愛媛県総合運動公園、えひめ森林公園の4施設。県民や事業者から回収した廃食用油が原料のバイオディーゼル燃料を使用したバイオマス発電設備を2025年度に整備する計画で、当該施設の整備及びその後の運用に向け、必要な調査及び設計を行う。さらに同エリア内で別途太陽光発電設備等の導入も計画。各施設における電気使用量に対する再エネ電力が不足する場合に、バイオマス発電による電力を近接する他のとべもり施設に供給する方法についても検討を行うとして、企画提案公募を実施。公募は5月27日～6月27日まで実施し、7月上旬審査結果を通知予定【建通新聞：2024/05/30、愛媛県：2024/05/27】

https://www.kentsu.co.jp/webnews/html_top/240530200016.html

<https://www.pref.ehime.jp/site/nyusatsu/74269.html>

■（株）クボタ（大阪）、秋田県大潟村で稲わらからバイオ燃料などを製造する実証プラントを稼働。日本国内で約800万t/年排出され、そのうち約650万t/年が農地にすき込まれている稲わらは、肥料になる一方で温室効果がCO₂の28倍と言われるメタンガスを大量に発生させており、脱炭素化に向けての大きな課題と位置付けられている。クボタは環境省「地域資源循環を通じた脱炭素化に向けた革新的触媒技術の開発・実証事業」において、京都大学（京都）や早稲田大学（東京）と連携。2022年度より稲わらからバイオ燃料やバイオ液肥を製造して農業や家庭で利用する地域資源循環システムの構築に向けた研究を進めている。大潟村は日本有数のコメの産地であるだけでなく、バイオマス産業都市構想に稲わらをメタン発酵させて製造するバイオガスや液肥の活用が含まれていることから、本実証事業との親和性が高いということでフィールド実証を行うことに。実証事業ではクボタのメタン発酵技術や京都大学と早稲田大学が保有する革新的な触媒に関する製造および反応プロセス技術を用いて、地域で収集する稲わらからバイオガス、グリーン水素、グリーンLPG等のバイオ燃料を製造し、地域の農業や家庭で利用する仕組みの構築に取り組む。また稲わらからバイオ液肥も製造し、農業生産にも資する地域資源循環システムを構築する。今後はグリーン水素、グリーンLPGの製造設備も追加設置予定で、並行して行っている秋田県立大学および大潟村との共同研究の中で、秋田県立大学の試験ほ場で稲わら収集による温室効果ガスの削減効果やバイオ液肥の肥料効果

を確認していく。実証事業の期間は2022年度～2029年度【（株）クボタ：2024/05/30】

<https://www.kubota.co.jp/news/2024/management-20240530.html>

■（株）環境フレンドリーホールディングス（東京）、（株）九電工（福岡）と業務提携を行うことを決議したと発表。これまで育成や品種改良、生産、有効活用などに取り組んできた「ソルガム」に関して、木質バイオマス発電での燃料利用や家畜の飼料利用への可能性を検証・評価するための実証試験を行うにあたり、九電工と研究開発に係る業務提携契約を締結する。①ソルガム育成に関する共同開発、②ソルガムのカスケード利用に関する共同開発、③ソルガムの飼料、燃料、素材に関する共同研究や販売について、両方で協力して新製品・新技術の開発を推進していく【（株）環境フレンドリーホールディングス：2024/05/31】

https://www.ef-hd.com/images/stories/ir/2024/20240531_1ef.pdf

■大峰山登拝の足場として知られ、標高800m超の高地に広がる奈良県天川村の洞川温泉郷に、4月25日、温泉施設「洞川温泉ビジターセンター」がオープン。旧センターが開館から約30年経ち老朽化したため、敷地を拡大して木造平屋建て855㎡の建物を新築。屋内浴室や露天風呂、休憩所、多目的スペースなどがあり、間伐材を生かす薪ボイラを備える。運営は指定管理者の洞川財産区が担う【産経新聞：2024/05/31】

<https://www.sankei.com/article/20240531-V3FBPBGDFK5NOENFLQNRZ7RTE/>

■鳥取県境港市で、5月31日に早生樹を試験栽培。境港市が農家から借り受けた耕作放棄地で行われ、市の農業公社の職員が、ハルシベヤナギの苗80本とハンノキの苗20本を植樹。これらは一般の樹木に比べ成長が早い「早生樹」で、1年に1～2m成長するとされる。市の植樹に先立ち、地元企業の合同会社境港エネルギーパワー（鳥取）も同社バイオマス発電所敷地内に、有効性を確認するとしてハルシベヤナギを植樹。境港市では農地の1/3にあたる約200haが耕作放棄地になっており、そこで成長が早い樹木を栽培し、バイオマス発電の燃料として活用することで、荒廃した農地の解消とともに新しい産業の創出にもつなげる狙い。試験栽培では、肥料の与え方など条件を

変えて成長を記録し、データを次の栽培に生かす。市は今後、ユーカリや早生桐など種類を増やし、5～6年かけて試験栽培を続ける予定【FNN プライムオンライン：2024/06/03、合同会社境港エネルギーパワー：2024/05/21】

<https://www.fnn.jp/articles/-/708406>

[https://sakaibp.p-](https://sakaibp.p-kit.com/userblog/index.php?action=view&blog_id=2161927&mode=sp)

[kit.com/userblog/index.php?action=view&blog_id=2161927&mode=sp](https://sakaibp.p-kit.com/userblog/index.php?action=view&blog_id=2161927&mode=sp)

■下水処理の過程で発生する可燃性ガスを燃料に活用するバイオマス発電設備が兵庫県赤穂市中広の下水管理センターに完成。6月1日から稼働開始。公募型プロポーザルで市と契約した、大阪ガス(株)(大阪)100%出資の「Daigas エナジー(株) (大阪)」が発電設備を設置。メンテナンス時を除いて24時間稼働し、一般家庭約80世帯の消費電力に相当する約34万kW/年を売電。発電期間は2044年までの20年間。100Vのコンセント10口を備え、災害時の非常用電源としても活用できる。市下水道課によると、同センターで発生する可燃性ガスは場内のボイラ設備の燃料として再利用しているが、これまでは約63%は余剰となり、焼却して大気に放出していた。今後はバイオマス発電に活用することで、年間約150t分のCO₂削減につながる予定【赤穂民報：2024/06/04】

<https://www.ako-minpo.jp/news/18159.html>

■山梨県甲府市で地球温暖化対策のバイオマス燃料に活用できる新たな植物「ヤマトダマ」の栽培を開始。甲府市は「ゼロカーボンシティ」の実現に向け、今年度からバイオマス燃料に活用できる新たな植物として研究を始めている。半年間で約6m成長する「ヤマトダマ」は、1粒が成長すると300粒から500粒の種が収穫でき、種からしぼった油は燃料になる。甲府市は苗を市内で利用されていない9か所の土地で栽培していくこととし、苗の成長や栽培場所の温度などを機器で観測し、栽培に適した土壌や気候条件などを調べていく予定【NHK NEWS WEB：2024/06/04】

<https://www3.nhk.or.jp/lnews/kofu/20240604/1040023430.html>

■林野庁、最新版となる「令和5年度 森林・林業白書」を公表。今回の特集は「花粉と森林」。下記サイトより閲覧可【林野庁：2024/06/04】

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/hakusyo/r5hakusyo/index.html>

■宮城県仙台市、市中心部歓楽街「国分町」や周辺の飲食店など53店舗から生ごみを集め、再生可能エネルギーのバイオマス発電に利用する事業を開始。指定の集積場所に専用の袋で出された生ごみを業者が回収し(株)東北バイオフードリサイクル(宮城)の施設で発酵させてメタンガスを取り出し、発電に使う。残ったごみは農業用肥料に利用する。政府目標に先駆けて2030年度までにCO₂排出実質ゼロを目指す「脱炭素先行地域」としての取り組みで、ごみ散乱の解決も目指す【産経新聞：2024/06/05】

<https://www.sankei.com/article/20240605-POLVK7MS5ZIZ5H4TPIQQDZ6HTY/>

■レンゴー(株)(大阪)、脱炭素など環境関連投資として2030年度までに700億円を充てると発表。350億円としていた従来の投資目標を2倍に引き上げたかたち。レンゴーは2027年までに石炭の使用をゼロにする方針を掲げており、工場の燃料を石炭から液化天然ガス(LNG)に転換する設備などを導入。埼玉県八潮市にある八潮工場にはバイオマス燃料のボイラを追加導入する予定【日本経済新聞：2024/06/05】

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUF055KH0V00C24A600000/>

■NYKバルク・プロジェクト(株)(東京)、檜垣造船(株)(愛媛)で建造中の近海新造船2隻のうち、1番船の命名進水式を6月5日に檜垣造船本社工場で実施。新造船2隻はJFEスチール(株)(東京)が製造するグリーン鋼材「JGreeX」を使用。JGreeXはJFEスチールのCO₂排出削減技術により創出した削減量を「マスバランス方式」を適用して任意の鋼材に割り当てることで、鉄鋼製造プロセスにおけるCO₂排出量を大幅に削減した鉄鋼製品。(一財)日本海事協会(ClassNK)の「環境ガイドライン」による船体構造などのグリーン鋼材の使用を示す記号「a-EA(GRS)」が世界で初めて船級符号に付記される予定。1番船は「BRIGHT QUEEN(ブライツ・クイーン)」と命名され、今年の秋には日本とアジア近海を結ぶ近海航路に投入。日本からは主に鋼材、東南アジアからは日本向けのバイオマス、合板等の輸送を担う予定【NYKバルク・プロジェクト(株)：2024/06/06、JFEスチール(株)】

<https://nbpc.co.jp/news/4978>

<https://www.jfe-steel.co.jp/products/jgreex/index.html>

■青森県西目屋村で薪の製造販売を手掛ける西目屋薪エネルギー（株）（青森）が、リンゴ農家が果樹の植え替えや剪定、廃園で伐採したリンゴの原木の買い取りを強化中。買い取りは丸太の状態、直径 10～40 cm（枝は太さ 5 cm 以上から可）、長さ 30 cm～1m のものが対象。枝葉がついたままのものや根株、大きな曲がりや二股、伐採後年月を経たもの、腐っているものは対象外。事前に連絡のうえ、同社の西目屋村薪製造ヤードへの持ち込みが条件。買い取り期間は 4～11 月【Web 東奥：2024/06/06】

<https://www.toonippo.co.jp/articles/-/1791942>

■環境省、閣議決定された令和 6 年版環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書を公表。下記サイトより閲覧可【環境省：2024/06/07】

https://www.env.go.jp/press/111155_00002.html

■キャノンマーケティングジャパン（株）（東京）、新潟特殊企業（株）（新潟）が運営する「バイオマスエコセンター」のバイオガス発電設備の建設工事を請け負う、ヴェオリア・ジェネッツ（株）（東京）より、汚泥や廃棄物からバイオガスを回収する際の臭気対策として「次亜塩素酸水式脱臭システム」を受注したと発表。バイオマスエコセンターでは汚泥を脱水、乾燥後、粒上の炭化物にする処理を 50t/日行っている。脱臭システムは同センターのバイオガス発電施設の脱臭設備として導入され、2026 年本格稼働する予定【PR TIMES：2024/06/10】

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000001114.000013943.html>

■（一社）あわら市観光協会（福井）、バイオマス燃料の生産と消費の現場を訪れる「教育旅行プログラム」を作成。2017 年にあわら市に設立されたもりもりバイオマス（株）があわら市蓮ヶ浦にある「ふくい WOOD バイオマスセンター」で作った木質チップなどを温泉施設のボイラで使う事業を開始したことがきっかけ。この事業に全国から見学者が増えたことから「教育旅行プログラムにできるのでは」と意見が出て、2021 年に全国の学校などに呼びかけ始めた。全国から修学旅行などで訪れた学生をセンターに案内してエネルギーの地産地消を周知し、

林業の活性化と CO₂ 排出削減に貢献している【中日新聞：2024/06/11】

<https://www.chunichi.co.jp/article/911533>

■長野県安曇野市と、サンリン（株）（長野）など 3 社が出資するエネルギー会社・安曇野 RE（株）（長野）が、脱炭素に向けた官民連携協定を締結（6 月 10 日）。2024～2026 年度に安曇野 RE が市有施設 25 カ所に太陽光パネルと蓄電池を設置し、市が電気を施設で使用して安曇野 RE に利用料を支払う。市ゼロカーボン推進課によると、事業者が設備を整備し、市が使用量に応じた料金を支払う PPA 方式で事業を行うのは初。2025、2026 年度には温浴施設など 4 カ所にバイオマスボイラを設置し、キノコ栽培後の廃培地を燃料とする事業も展開する予定。環境省の「地域脱炭素移行・再エネ推進交付金」として 2022～2026 年度で計 8 億 6,000 万円の交付金を受けており、これを活用。キノコ廃培地を乾燥させる施設はサンリン子会社の（株）えのきボーヤ（長野）内に建設済みだが、本年度はこの施設を更新した上で廃培地由来の燃料を円柱状に固形化する設備を新設。安曇野 RE を通じてバイオマスボイラの燃料として提供する。太陽光発電の取り組みで 2,181t/年、バイオマスボイラで 1,572t/年 CO₂ を削減する見込み【市民タイムス WEB：2024/06/11、信濃毎日新聞：2024/06/12】

<https://www.shimintimes.co.jp/news/2024/06/post-25904.php>

<https://www.shinmai.co.jp/news/article/CNTS2024061200204>

■（株）森未来（東京）、木材情報プラットフォーム「eTREE」の新たな Web コンテンツとして、各地で公表されている木材利用の補助金情報を都道府県ごとにまとめた「木材補助金ポータル」の提供を開始。ポータルは当該地域で利用可能な補助金の制度概要のほか、募集期間や公式 HP のリンクを記載。過去に終了した制度も閲覧できる【PR TIMES：2024/06/11】

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000026.000020108.html>

■アイシン高丘（株）（愛知）、インドネシア共和国の大手パーム油生産企業である PT. Triputra Agro Persada Tbk.（以下、「トリプトラ」）と、2 社の共同出資による合併会社 PT. ATP Bio Indonesia 設立に合意したと発表。6 月 12 日には合併契約の調印式・記者会見を開催。アイシン高丘が開発するバイオ成型炭は PKS が原料。トリプトラグループのパーム油の生産量は 100

万 t/年に達する国内有数の規模を誇っており、グリーンビジネスに積極的に取り組んでいることなどからバイオ成型炭の生産を協業で進めることに。合弁会社は同国の西カリマンタン州ポンティアナック市に 2024 年 7 月設立予定。石炭コークスを使用する溶解工程における CO₂ 排出量は鑄造業界が抱える課題であり、その低減に向けて代替材としてのバイオ成型炭を生産する。現時点で、石炭コークスを 100%バイオ成型炭に置換可能という実証評価も完了しており、2025 年夏頃合弁会社での生産を開始し、世界中の鑄造企業への展開を目指す【アイシン高丘（株）：2024/06/12】

<https://www.at-takaoka.co.jp/news/detail.php?id=119>

■北海道帯広市、十勝管内 19 市町村が 2013 年に策定した「十勝バイオマス産業都市構想」について最終年度となった 2022 年度に期中評価を実施し、取りまとめた報告書を公表。19 市町村は 2013 年 6 月、7 府省により「バイオマス産業都市」として選定・支援を受け、バイオマスを活用した産業の創出や地域循環型システムの構築に向けた取り組みを進めてきた。昨年は年度末に 10 年間の計画期間が終わることから、バイオマス利用率や発電におけるエネルギー自給率、CO₂ の排出削減量の測定など、期中評価を実施。それによると、木質バイオマスで予定していた事業が実現しなかったことや家畜ふん尿で系統接続の制限からバイオガスプラントの新設が滞ったこと等の要因があり、バイオマス利用率と CO₂ の排出削減量の二つは目標値に届いていないことが分かった。しかし国より自治体等におけるバイオマスの取り組みを促進するため、計画期間を原則 10 年間延長する方針が示されたことから、十勝バイオマス産業都市構想も計画期間を延長することに【帯広市：2024/06/14、2023/02/14】

<https://www.city.obihiro.hokkaido.jp/sangyo/food/1005508.htm>

https://www.city.obihiro.hokkaido.jp/_res/projects/default_project/_page/_001/014/338/r050214_keibun_6.pdf

■（株）サニックス（福岡）、飲食店の廃食油などからバイオマス燃料を抽出した後に残る汚泥を、固形燃料にして販売する事業を開始。2028 年度までに北九州市内にある国内最大級の処理工場に製造設備を導入する。これまで外部に処分を委託していた汚泥を製品化することにより収益力の強化を図る考え。1 万 t/年の製造を目指す【日本経済新聞：2024/06/17】

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOJC22A8Q0S4A520C200000/>

■広島発祥の大手菓子メーカーのカルビー（株）（東京）が、広島市佐伯区五日市港で建設中の新工場「せとうち広島工場」を報道関係者に初公開（6 月 18 日）。原材料のジャガイモの皮から出たメタンガスをボイラの燃料に使うなど環境に配慮している。建物はほぼ完成し、2025 年 1 月頃からの順次稼働を目指す【中国新聞：2024/06/18】

<https://www.chugoku-np.co.jp/articles/-/481865>

■三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング（株）（東京）、林野庁委託事業（令和 6 年度途上国森林プロジェクト環境整備事業）の下、「二国間クレジット制度を利用した REDD+や植林プロジェクトの新規案件形成に向けた現地調査」の実施者について公募を実施。同事業は二国間クレジット制度（JCM）の下での REDD+や植林プロジェクトの新規案件形成に向けて、途上国政府のニーズを踏まえつつ、プロジェクトの対象地や活動内容を検討するための現地調査を事業者が行うもので、支援は 1 件あたり約 250 万円（税込）。審査の結果、2 件採択。そのうち 1 件はバイオマス・フューエル（株）（東京）の「ベトナム国ゲアン省における JCM 植林プロジェクト案件形成に向けた実現可能性調査」に【VIET JO：2024/06/19】

<https://www.viet-jo.com/m/news/nikkei/240618195051.html>

■シン・エナジー（株）（兵庫）、（株）山田林業、グローバル建設（株）、ハヤキ（株）といった地元企業とともに経営する生野銀山バイオマス（株）（兵庫県朝来市）が建設した「生野銀山バイオマス発電所」の竣工式を 6 月 18 日に実施。同発電所は燃料の全量を地元から調達する地産地消型のバイオマス発電所で、約 10,000t/年の未利用材をチップに加工して使用。地域に根ざす発電所として輸入依存の化石燃料から兵庫県産の地域材に転換する。ドイツ・WEGSCHEID ENTRENCO 社製の熱電併給装置（150kW）を 6 台連結する定格出力 900kW の朝来市初の小規模木質バイオマス発電所となっており、発電した電力は FIT 制度を利用し、2024 年 7 月から関西電力送配電（株）（大阪）へ全量売電。発電時に生まれる熱は発電所併設の燃料製造工場で木質チップの乾燥に利用。余剰生産する木質チップは近隣の熱需要施設で利用し、発電時に副産物として生まれるバイオ炭（チャー）を農業利用するなど、エネルギー創出を軸に

した循環社会を創出する【神戸新聞 NEXT:2024/06/18、シン・エナジー (株):2024/06/21】

<https://www.kobe-np.co.jp/news/economy/202406/0017785031.shtml>
<https://symenergy.co.jp/news/release/20240621-9030.html?id=newsCategory>

■岡山県真庭市にバイオマス発電所の建設を計画している民間の事業者が、市長らの発言で名誉を傷つけられたとして損害賠償を求める裁判を起こしているのに対し、真庭市が違法な訴訟だとして逆に事業者を提訴へ。同市西河内地区で出力が7100kWのバイオマス発電所の建設を計画しているのは滋賀県の合同会社落合バイオマス発電。市は市民や木材団体の反対、市議会での計画反対陳情の意思を重く受け止め、建設計画に協力しない姿勢を示していて、計画地へ通じる市の道路を工事用の重機などが通ることを認めていない。この発電所の計画を巡り、2022年2月に開かれた市議会の全員協議会で、太田市長と近隣住民が事業者について「反社会勢力」だという旨の名誉

棄損にあたる発言があったとして、事業者が真庭市などに9,900万円の損害賠償を求めて2024年1月に大津地方裁判所に提訴。市は全員協議会は非公開で開催されたため事業者の名誉を低下させるものでなく、訴えには法的根拠がなく請求額が過大で違法だとして330万円を事業者に求める訴えを起こすことを6月19日の会見で明らかに。事業者側の弁護士は「訴状が届いておらずコメントできない」としている【KSB NEWS:2024/06/19】

<https://news.ksb.co.jp/article/15311131>

■経産省資源エネルギー庁、令和5年度エネルギーに関する年次報告(エネルギー白書2024)について公表、下記サイトより閲覧可【資源エネルギー庁:2024/6月】

<https://www.enecho.meti.go.jp/about/whitepaper/#new>

※OSR:バイオマス・再可エネ等の専門情報誌「オンサイト・レポート」の略

2. ペレット関連情報

■新潟県十日町市、お試して移住ができるシェアハウスの入居者を募集中。同市は移住・Uターン希望者のお試し移住ができるシェアハウスを2棟用意。その一つ、「竹所(たけところ)シェアハウス」は2016年に古民家再生のスペシャリストとして知られるドイツ人建築デザイナーのカール・ベンクス氏が改修。出来る限り既存の柱や梁などを活用し、古材も随所に使用されている。「親水(しんずい)シェアハウス」も古民家を改修して2017年に誕生。いずれも入居期間は最長1年間。竹所シェアハウスの方は居間に、親水シェアハウスの方は1階に暖房用のペレットストーブを設置【新潟県十日町市:2024/05/13、2024/03/27】

<https://www.city.tokamachi.lg.jp/soshiki/somubu/kikakuseisakuka/1/bosyu/1454481088138.html>

<https://www.city.tokamachi.lg.jp/soshiki/somubu/kikakuseisakuka/1/bosyu/1476695482585.html>

■愛媛の木質バイオマス発電、再稼働までもう一歩。(有)内藤鋼業(愛媛)運営のペレット工場は、2023年4月に起こった火災で建屋が半焼。火災によるけが人はなく、近隣の山や施設

への延焼もなかったが、3台あったペレットミルは全て焼け、乾燥機等が焼失。工場ではペレットにできない木や木の皮を燃やして生まれた熱を熱風に変え、円筒状の乾燥機に送りその中にチップを入れて乾燥させる仕組みとなっているキルン式乾燥機を使用。高温の熱風を利用するキルン式は短時間で乾燥できる分、発火リスクもある。内藤社長によると、今回の火災は乾燥機内が空だきの状態になってしまったことが原因と考えられるという。社長は火災後、工場や隣接する発電所の稼働が止まっても「木を出す仕事が無くなってしまふ」からと木の搬入を止めず、県森林組合連合会や交流のある企業に協力してもらい、原木やチップなどを引き取ってもらえるよう手配。町内には木質ペレットを燃料とするドイツのブルクハルト社製ガス化CHP装置を導入したバイオマス発電所が二か所あり、同社がペレットの製造と両発電所の運営を担っているが、燃料生産がストップしたため工場に隣接するバイオマス発電所はやむなく停止。しかし内子龍王バイオマス発電所の方は、発電時に発生する熱を近くの宿泊施設の風呂やスポーツクラブのプールを温めるのに利用しており、迷惑がかからないよう在庫のペレットなどに頼りながら火災後も稼働を続けた。1年が経過し、

復旧は容易ではないが、6月以降の発電所再開に向けてあと一歩のところまで来ている【愛媛新聞 ONLINE：2024/05/27】

<https://www.ehime-np.co.jp/article/news202405270008>

■光熱費の高騰で2023年2月から休業していた岐阜県下呂市小坂町落合の日帰り温泉「巖立峡ひめしゃがの湯」が6月1日、施設を一部リニューアルして営業を再開。市の施設だったが、公共施設の整理で2019年に民間に譲渡。2021年から運営会社の株式を取得した豊実精工（株）（岐阜）が経営している。休業中に設備を改修し、電気代を抑えるためサウナの電気ストーブをペレットストーブに変更。フィンランド式サウナで、熱した石にアロマ水をかけて蒸気を出すロウリュを楽しめる。22℃程度の源泉を37～38℃に沸かすが、来年2月をめどに熱源を灯油から水素を使う燃料電池に切り替え、さらに経費を節減する予定。当面は土日・祝日に営業（午前10時半～午後9時）するが、燃料電池導入後は営業日を週5日に増やす予定【朝日新聞：2024/05/27、ひめしゃがの湯】

<https://www.asahi.com/articles/ASS5V3W0XS5VOHGB001M.html>

<https://hime-spa.jp/>

■カナダの森林研究者2名が、現地に進む原生林伐採の実態を伝えるために5月下旬に来日。約1週間滞在した間、国会議員や資源エネルギー庁、林野庁との面談、三重県のFSC認証林訪問、講演、雑誌の取材などをこなし、カナダの伐採木材はバイオマス発電のペレットになり、最大の輸出先が日本となっている。研究者の一人、レイチェル・ホルト氏は、「木質バイオマス発電は燃焼時のみならず、樹木の伐採時、ペレットの製造時、輸送時と全てのプロセスで温室効果ガスが発生し、カーボンニュートラルであるわけがない。発電効率も20～30%程度で、そのために原生林を伐って作ったペレットをわざわざ太平洋を超えて日本に運ぶのは理にかなわない」と話す。スザンヌ・シマード教授は、森林には「マザーツリー」と呼ばれる古木を中心に、生態系を維持するネットワークが存在することを解明した研究者で、原生林について「伐採はネットワークを破壊し、森が蓄えた炭素を放出する。気候変動対策のために輸入木質バイオマス発電は中止すべき」と訴えた【alterna：2024/06/04】

<https://www.alterna.co.jp/125727/>

■NEDO、2024年度「木質バイオマス燃料等の安定的・効率的な供給・利用システム構築支援事業／木質バイオマス燃料（チップ、ペレット）の品質規格の策定委託事業」に係る公募の結果を公表。実施予定先に決まったのは（一社）日本木質バイオマスエネルギー協会（東京）。採択テーマ名は「木質バイオマス燃料(チップ、ペレット)の品質規格の普及へ向けた調査」となっており、2024年度～2025年度まで実施する予定【NEDO：2024/06/05】

https://www.nedo.go.jp/koubo/FF3_100391.html

■NEDO、2024年度「木質バイオマス燃料等の安定的・効率的な供給・利用システム構築支援事業／木質バイオマス燃料（チップ、ペレット）の安定的・効率的な製造・輸送等システムの構築に向けた実証事業」に係る公募結果を公表。1件の提案について審査を行ったが、今回は採択なしとの結論に。同事業の第2回公募は2024年8月中旬から1カ月間公募予定【NEDO：2024/06/05、2024/06/12】

https://www.nedo.go.jp/koubo/FF3_100387.html

https://www.nedo.go.jp/koubo/FF1_100405.html

■長野県伊那市、6月7日に市役所で開かれた市議会全員協議会で、上伊那森林組合の木質ペレット生産工場に導入する木質バイオマス発電設備の概要を発表。燃料用の木は国土交通省が提供する同市内の美和ダムの流木をはじめ松枯れした木や立木、間伐材など620t/年を使用。木材をチップ化して乾燥後、発電設備の燃料に使用することでCO₂排出を削減するだけでなく、「エネルギー自給モデル」の先進事例として発信を図る。年間の発電量のうち約17万kWhをペレット生産設備で活用。稼働後は年間の電気料金約1,980万円のうち367万円が削減でき、CO₂排出は695t/年削減する見込み。総事業費は約2億3,500万円だが、国の地域脱炭素移行・再エネ推進交付金を活用し、市の負担は全体の1/3程度となっている。発電量のうち約12万kWh/年は丸紅伊那みらいでんき（株）（長野）に売電し、約100万円の収入は人件費やメンテナンス代などランニングコストに充てる。発電設備は市が所有し、運営を上伊那森林組合に3年間委託。その後は実績の検証を行った上で、同組合に貸与して継続運営を図る。稼働は2025年4月以降の予定【長野日報：2024/06/08、伊那谷ねっと：2024/06/07】

<https://www.nagano-np.co.jp/news/detail.php?id=1648>

<https://ina-dani.net/topics/detail/?id=64653>

■ 3月に米連邦破産法第 11 条を申請し、民事再生中の世界最大の木質ペレット製造会社エンビバ（米国）が、ドイツの子会社をドイツの穀物生産団体組織に売却したことが明らかに。エンビバは同子会社を通じて、欧州市場への木質ペレット供給のため工場と販売拠点を兼ねていたが、生産管財人が本体再生のため米国以外の拠点整理の一環として売却。売却額は 400 万ドル（約 6 億 2,000 万円）【(一社)環境金融研究機構:2024/06/11】
<https://rief-jp.org/new/146053>

■ (株) 脱炭素化支援機構（東京）、木材を炭化し、ペレット化したブラックペレット（以下、「BP」）の製造・販売事業に対して劣後ローンを実行したと発表。製造・販売事業を行うのは北陸電力（株）（富山）、日鉄物産（株）（東京）のアメリカ合衆国子会社である NIPPON STEEL TRADING AMERICAS, INC. 及び、米国でバイオマス燃料の製造技術を有する NCT Holdco, LLC（以下「Aymium」）等が出資する National Carbon Technologies – California, LLC（以下「NCT-CA」）。Aymium は米国で BP を製造し、各種用途向けに販売している企業。その Aymium が中心となって NCT-CA を設立し、米国カリフォルニア州で果樹木の古木等を原料とする BP 製造工場建設を計画。本事業で製造される BP は全量を日本に輸出し、北陸電力の石炭火力発電所での利用等を用途として販売される予定。脱炭素化支援機構はこの事業の「温室効果ガス削減」および「経済と環境の好循環」の二つの観点から支援を決定したとしている【PR TIMES: 2024/06/14】
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000006.000140317.html>

■ 日本インシュレーション（株）（東京）、(株) 日本 TOYO（東京）と共同提案し、推進する事業「石炭火力発電所での CO₂ 排出削減を実現するための廃棄物・未利用バイオマス資源からのブラックペレット製造と石炭との混焼の国際実証（ベトナム）」が、NEDO の 2024 年度「脱炭素化・エネルギー転換に資する我が国技術の国際実証事業（実証要件適合性等調査）」第 1 回公募に採択されたと発表。加水分解技術を用いて、従来の技術ではブラックペレット化が困難な廃棄物や未利用バイオマス資源（EFB 等）を高温・高圧の水蒸気で加水分解し、ブラックペレットを製造する技術の実証を行う。廃棄物や未利用バイオマス資源から製造されたブラックペレットと石炭混焼を実施した例がなく、実証が必要なことから、約 1 年かけてベトナムに

おけるエネルギー事情、関連政策、ビジネス環境等の情報収集等を行い、実証研究の実現性及び普及可能性の検証を行う【日本インシュレーション（株）:2024/06/17】

<https://www.jic-bestork.co.jp/modules/smartsection/item.php?itemid=494>

■ 合同会社くまもと森林発電（熊本）運営の八代バイオマス発電所（熊本県八代市）、6 月 16 日に営業運転を開始。同発電所は (株) IHI（東京）と (株) IHI プラント（東京）が EPC を担当し、建設。くまもと森林発電は中部電力（株）（愛知）が 49%、東邦ガス（株）（愛知）が 37%、豊田通商（株）（愛知）子会社の (株) エネ・ビジョン（愛知）が 14% 出資して 2020 年 5 月に設立。八代バイオマス発電所は主に熊本県産の国内未利用間伐材などを用いた木質チップ 6 万 t とベトナム・マレーシア産の木質ペレット 24 万 t を燃料とする木質専焼の発電所で、発電出力は 75,000kW、想定年間発電電力量は約 4.8 億 kWh（一般家庭約 15 万世帯分に相当）。発電した電力は FIT に基づき九州電力送配電（株）（福岡）に売電。IHI が今後 20 年間にわたる運転・保守業務を受注している【中部電力（株）:2024/06/17、PR TIMES:2024/06/17、メガソーラービジネス:2024/06/19】
https://www.chuden.co.jp/publicity/press/1213973_3273.html
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000182.000089117.html>
<https://project.nikkeibp.co.jp/ms/atcl/19/news/00001/04277/?ST=msb/>

■ (株) IHI（東京）、タイ国営電力会社 Electricity Generating Authority of Thailand（以下「EGAT 社」と）、バイオマスペレットの製造および EGAT 社が所有するタイ最大の火力発電所である Mae Moh 発電所（タイ北部ランパーン県）におけるバイオマス燃焼試験に向け検討実施へ。6 月 4 日、経産省およびタイ王国エネルギー省が開催した第 6 回日タイエネルギー政策対話にて覚書を締結。両社はタイ政府が目標として設定している 2050 年までにカーボンニュートラルおよび、2065 年までに温室効果ガス排出ネットゼロの達成に向け、タイにおける脱炭素化に向けた協業に関する覚書を 2023 年 3 月に締結。広く協議・検討を進めてきた。今回の覚書ではアカシアやユーカリといった木質ペレット製造に関する製造業者の評価と選定を含むバイオマスペレット製造、および同発電所における燃焼試験について、技術面および経済面の検討を行う【PR TIMES:

3. イベント情報（国内）

◎：木質ペレット燃料、ストーブ、ボイラの関連イベント

■（一社）脱炭素推進協議会 ADeS 講演会「森林と気候変動」

2024年7月3日（水）

群馬県庁 29 階 291 会議室（群馬県前橋市）/オンライン併用

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000001.000144458.html>

■森林産業コミュニティ・ネットワーク(FICoN)、他「森林産業コミュニティ・ネットワーク (FICoN) 第 10 回ウェブ検討会 ～中大規模木造建築における国産材の利用促進に向けて～」

2024年7月4日（木）

Microsoft Teams によるウェブ形式

<https://www.ffpri.affrc.go.jp/event/2024/20240704ficon/index.html>

■林業経済学会「2024 年度林業経済学会主催、砂防学会、森林利用学会共催 合同シンポジウム『森林における自然災害にどのように対応するのかー最前線の研究成果とその対策』」

2024年7月5日（金）

名古屋大学野依記念学術交流館カンファレンスホール 2F（愛知県名古屋市）

<https://jfes.org/archives/2381>

■（一社）日本ウッドデザイン協会「「WOOD DESIGN EXPERIENCE～木を使って、暮らしと街と社会を良くする 2 日間@東京～」

2024年7月5日(金)～6日(土)

KITTE 名古屋イベントスペース（愛知県名古屋市）

<https://www.jwda.or.jp/cms/news/contents/174/>

■埼玉県気候変動適応センター「気候変動適応サイエンスカフェ『気候変動により高まる熱中症リスクとその対策』」

2024年7月9日（火）

Zoom 開催

<https://saipat.pref.saitama.lg.jp/archives/1812>

■NPO 法人農都会議「総会記念講演会『バイオマスエネルギーの未来技術ーバイオマスエネルギーを取り巻く最近の動向、希望と課題ー』」

2024年7月9日（火）

オンライン（Zoom 利用）/ 三田いきいきプラザ 2F 集会室 C（東京と港区）

<https://blog.canpan.info/bioenergy/archive/431>

■（株）日本計画研究所【JPI セミナー】「SAF の製造技術とプロジェクト最新動向」

2024年7月23日（火）

JPI カンファレンススクエア（東京）/ライブ配信/アーカイブ配信

<https://www.jpi.co.jp/seminar/16831>

■（公財）地球環境戦略研究機関第 16 回 持続可能なアジア太平洋に関する国際フォーラム【ISAP2024】「地球のトリプル・クライシスを乗り越えるために必要な統合的アプローチとは」

2024年7月23日（火）

パシフィコ横浜（神奈川）とオンラインのハイブリッド

<https://www.iges.or.jp/jp/news/20240523>

■国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所「夏の一般公開 2024」

2024年7月26日（金）

森林総合研究所（茨城県つくば市）

<https://www.ffpri.affrc.go.jp/event/2024/20240726natsukoukai/index.html>

■兵庫県「兵庫県バイオマス活用推進大会」

2024年7月26日(金)

兵庫県民会館902号室(兵庫県神戸市) /Web

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk06/press/20240617-2.html>

■(一社)日本エネルギー学会「第33回日本エネルギー学会大会」

2024年8月7日(水)～9日(金) ※9日はテクニカルツアー

ー

早稲田大学早稲田キャンパス(東京都新宿区)

<https://www.jie.or.jp/publics/index/964/>

■三菱重工パワーインダストリー(株)「子どもアドベンチャーカレッジ2024」

2024年8月8日(木)

三菱重工横浜製作所本牧工場構内(神奈川県横浜市)

<https://power.mhi.com/jp/group/ids/news/240611.html>

※横浜市内在住または在学の小学5年生、小学6年生が対象

■(一社)日本木質バイオマスエネルギー協会「WOOD BIO交流プラットフォーム 令和6年度現地見学会」

2024年8月22日(木)～23日(金)

8/22は北海道上川郡当麻町、8/23は同下川町

<https://jwba.or.jp/topics/events/topics20240520/>

■バイオマスボイラー・ユーザー協会準備会、NPO法人農都会議共催セミナー「バイオマスボイラー業界団体づくり～バイオマスボイラー・ユーザー協会準備会に期待すること～」

2024年8月29日(木)

オンライン開催(Zoomなど利用)

<https://blog.canpan.info/bioenergy/archive/435>

■産経新聞社「FORESTRISE 2024(第4回次世代森林産業展)」

2024年9月18日(水)～9月20日(金)

東京ビッグサイト 東ホール(東京都江東区)

<https://www.forestrise.jp/2024/index.html>

◎RX Japan(株)「第22回 SMART ENERGY WEEK【秋】」

2024年10月2日(水)～4日(金)

幕張メッセ(千葉県千葉市)

<https://www.wsew.jp/autumn/ja-jp.html>

■(一社)林業機械化協会「2024第47回全国育樹祭開催記念行事 森林・林業・環境機械展示実演会」

2024年10月20日(日)～21日(月)

福井県スキージャム勝山(福井県勝山市)

<https://www.rinkikyo.or.jp/news/view/150>

◎RX Japan(株)「第12回 SMART ENERGY WEEK【関西】」

2024年11月20日(水)～22日(金)

インテックス大阪(大阪)

<https://www.wsew.jp/osaka/ja-jp.html>

◎RX Japan(株)「SMART ENERGY WEEK 春」

2025年2月19日(水)～21日(金)

東京ビッグサイト東・南ホール(東京都江東区)

<https://www.wsew.jp/spring/ja-jp.html>

◎RX Japan(株)「BIOMASS EXPO バイオマス展」

2025年2月19日(水)～21日(金)

東京ビッグサイト東・南ホール(東京都江東区)

<https://www.wsew.jp/hub/ja-jp/about/bm.html>

◎日経ビジネス(株)「2025 NEW 環境展/2025 地球温暖化防止展」

2025年5月28日(水)～30日(金)

<https://www.n-expo.jp/>

4. イベント情報 (海外)

■2024 Carbon Capture & Storage Association's (CCSA) EU

Conference

2024年7月3日 (水)

ブリュッセル (ベルギー)

<https://www.ccsassociation.org/events/ccsa-eu-conference/>

■Matching biomass supply and demand cost-effectively – optimized aggregation and supply chain efficiency in India

2024年7月10日 (水)

Zoom

<https://www.worldbioenergy.org/news/799/53/Matching-biomass-supply-and-demand-cost-effectively-optimized-aggregation-and-supply-chain-efficiency-in-India/>

■2024 International Fuel Ethanol Workshop & Expo

2024年7月10日 (水) ~12日 (金)

ミネソタ州ミネアポリス (USA)

<https://2024-few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pagelD=Home>

■2024 Biodiesel & Renewable Diesel Summit

2024年7月10日 (水) ~12日 (金)

ミネソタ州ミネアポリス (USA)

https://2024-few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pagelD=Biodiesel_Summit_Sustainable_Aviation_Fuel_Renewable_Diesel

■2024 Carbon Capture & Storage Summit

2024年7月10日 (水) ~12日 (金)

ミネソタ州ミネアポリス (USA)

https://2024-few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pagelD=Carbon_Capture_Storage_Summit

■FinnMETKO 2024

2024年8月29日 (木) ~31日 (土)

ヤムサ (フィンランド)

<https://www.finnmetko.fi/>

■Progress in Biogas VI

2024年9月2日 (月) ~4日 (水)

シュトゥットガルト (ドイツ)

<https://ibbk-biogas.com/schedule/progress-in-biogas/>

■North American SAF Conference & Expo

2024年9月11日 (水) ~13日 (金)

ミネソタ州セント・ポール (USA)

<https://saf.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pagelD=Home>

■ International Training Seminar: Sustainable Bioenergy Heating - Market development and technologies

2024年9月23日 (火) ~26日 (金)

リンツ (オーストリア)

<https://www.cleantechcluster-energie.at/en/bioenergy-heating-2024>

■6th BIOGAS POWER ON

2024年9月25日 (木) ~26日 (金)

コペンハーゲン (デンマーク)

<https://fortesmedia.com/biogas-poweron-2024,4,en,2,1,100.html>

■Renewable Gas Trade Fair 2024

2024年10月1日 (火) ~2日 (水)

バリャドリード (スペイン)

<https://salondelgasrenovable.com/en>

■Indonesia Sustainable Biofuels

2024年10月2日 (水) ~3日 (木)

ジャカルタ (インドネシア) /オンライン

<https://www.cmtevents.com/enquiry.aspx?ev=24102>

■Bio-Energy Pavilion 2024

2024年10月3日(木)～5日(土)

グレーターノイダ(インド)

<https://biogas-india.com/bio-energy-pavilion-2024/>

■Value of Biogas West 2024

2024年10月7日(月)～9日(水)

バンクーバー(カナダ)

<https://biogasassociation.ca/vob2024west/>

■Biomass Power ON 2024

2024年10月9日(水)～10日(木)

コペンハーゲン(デンマーク)

<https://fortesmedia.com/biomass-poweron-2024,4,en,2,1,101.html>

■European Biomethane Week

2024年10月21日(火)～25日(土)

ブリュッセル(ベルギー)

<https://www.europeanbiomethaneweek.eu/>

■BBEST- IEA Bioenergy Conference

2024年10月22日(水)～24日(金)

サンパウロ(ブラジル)

<https://bbest-ieabioenergy.org/>

◎USIPA 2024 Conference

2024年11月3日(日)～5日(火)

フロリダ州マイアミ(USA)

<https://usipaconference.com/>

■UNFCCC COP29

2024年11月11日(月)～22日(金)

バクー(アゼルバイジャン共和国)

<https://unfccc.int/cop29>

■2024 National Carbon Capture Conference & Expo

2024年11月19日(火)～20日(水)

ミネソタ州セント・ポール(USA)

<https://2024-nccc.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pagelid=Home>

■European Bioenergy Future

2024年11月20日(水)～21日(木)

ブリュッセル(ベルギー)

<https://bioenergyeurope.org/events/11-events/415-ebf-european-bioenergy-future-2024.html>

■Future of Biogas Europe Summit 2024

2024年11月27日(水)～28日(木)

バルセロナ(スペイン)

<https://www.wplgroup.com/aci/event/future-biogas-europe/>

◎Nordic Pellets Conference 2025

2025年2月5日(水)～6日(木)

ストックホルム(スウェーデン)

<https://www.svebio.se/en/evenemang/nordic-pellets-conference-2025/>

◎World Sustainable Energy Days 2025

2025年3月5日(水)～7日(金)

ヴェルス(オーストリア)

<https://www.wsed.at/>

◎International Biomass Conference & Expo

2025年3月18日～20日

ジョージア州アトランタ(USA)

<https://2025-ibce.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pagelid=Home>

■EXPO BIOMASA

2025年5月6日(火)～8日(木)

バリャドリード(スペイン)

<https://www.expobiomasa.com/en/>

■Elmia Wood

2025年6月4日(水)～7日(土)

5. 2024 年度ペレットストーブ、ボイラ補助金情報 (都道府県順)

※締切や公募の条件等の詳細は各自治体にお問い合わせください。

◇：ストーブ

◆：ストーブ・ボイラ共

【北海道】

◆滝上町「令和6年度滝上町省エネ再エネ設備導入促進補助金」

https://www.town.takinoue.hokkaido.jp/chosei/oshirase/zerocar_bon1.html

【秋田県】

◇大館市「大館市ペレットストーブ設置費補助金事業」

<https://www.city.odate.lg.jp/city/handbook/handbook8/page42/p278>

◇鹿角市「R6 木質バイオマス熱利用設備導入支援補助金 (環境省：重点対策加速化事業)」

<https://www.city.kazuno.lg.jp/soshiki/sangyokatsuryoku/zeroka-bon/gyoumuannai/10298.html>

【宮城県】

◆加美町「木質バイオマス推進事業補助金」

<https://www.town.kami.miyagi.jp/sangyoshinko/noringyo/ringyo/1940.html>

【山形県】

◇小国町「小国町木材製品利用住宅建築奨励助成金」

<https://www.town.oguni.yamagata.jp/soshiki/seibi/1589.html>

◇川西町「令和6年度川西町再生可能エネルギー設備導入事業費補助金」

<https://www.town.kawanishi.yamagata.jp/kurashi/seikatsukankyo/2024-0509-0857-77.html>

◇高畠町「令和6年度高畠町再生可能エネルギー設備導入事業費補助金」

<https://www.town.takahata.yamagata.jp/soshikiichiran/kikaku/3/kankyo/saiene.html>

◆鶴岡市「令和6年度鶴岡市再生可能エネルギー設備・木質バイオマスエネルギー設備普及促進事業費補助金」

<https://www.city.tsuruoka.lg.jp/seibi/kankyo/recycleenergy/kankyoene.html>

◆天童市「令和6年度天童市ペレットストーブ等設置支援事業費補助金」

<https://www.city.tendo.yamagata.jp/lifeinfo/gomi/pelletstove-hojokin.html>

◇南陽市「木質燃料利用促進事業補助金」

<http://www.city.nanyo.yamagata.jp/rinmu/5454>

【新潟県】

◇阿賀町「阿賀町ペレットストーブ購入補助金」

https://www.town.aga.niigata.jp/section/reiki_int/reiki_honbun/r174RG00000795.html

◇糸魚川市「糸魚川市ペレットストーブ設置事業補助金」

<https://www.city.itoigawa.lg.jp/5637.htm>

◆小千谷市「小千谷市脱炭素設備導入促進補助金」

<https://www.city.ojya.niigata.jp/soshiki/kankyo/saienehojokin.html>

【石川県】

◇かほく市「住宅用自然エネルギーシステム設置費補助金」

<https://www.city.kahoku.lg.jp/001/189/190/d000468.html>

【長野県】

◇青木村「青木村薪・ペレットストーブ購入補助金」

http://www.vill.aoki.nagano.jp/asset/00032/gyousei/kensetsunorinka/shinseisho/kensetsu/suto-bu_hojiyo_youkou.pdf

◇安曇野市「令和6年度 安曇野市ペレットストーブ導入促進事業補助金」

<https://www.city.azumino.nagano.jp/soshiki/30/60855.html>

◆飯島町「ペレットストーブ・ペレットボイラー購入補助金」

<https://www.town.ijima.lg.jp/soshikiichiran/sangyoshinkoka/koc/hirohimmugakari/1894.html>

◇飯田市「令和6年度飯田版 ZEH 普及促進事業補助金」

<https://www.city.iida.lg.jp/uploaded/attachment/68887.pdf>

◆木島平村「信州産ペレット消費拡大事業」、「薪ストーブ等購入費補助金」

http://www.vill.kijimadaira.lg.jp/articles/2022110200024/file_contents/2024subsidies.pdf

◆高山村「森のエネルギー推進事業補助金」

<https://www.vill.takayama.nagano.jp/docs/641.html>

◆辰野町「ペレットストーブ購入の補助金」

https://www.town.tatsuno.lg.jp/gyosei/soshiki/sangyoshinkoka/shigoto_sangyo/4/951.html

◇豊丘村「豊丘村ペレットストーブ等購入事業補助金」

<https://www.vill.nagano-toyooka.lg.jp/00topics/2024-0606-1520-7.html>

◇松本市「松本市ペレットストーブ購入事業補助金」

<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/soshiki/74/3181.html>

【岐阜県】

◆高山市「木質バイオマス活用促進事業補助金」

<https://www.city.takayama.lg.jp/kurashi/1000024/1000130/1001311/1001315.html>

【京都府】

◇南丹市「薪ストーブ及び木質ペレット購入助成事業」

https://www.city.nantan.kyoto.jp/www/life/114/004/000/index_10647.html

【兵庫県】

◇宍粟市「2024年度宍粟市再生可能エネルギー利用促進事業」

<https://www.city.shiso.lg.jp/soshiki/sangyo/rinngyousinnkou/tanboujyouhou/shinenerugi/1515743370997.html>

◆新温泉町「新温泉町再生可能エネルギー導入促進事業」

https://www.town.shinonsen.hyogo.jp/page/index.php?mode=detail&page_id=4608e6edfca1d28e114ab35a483bb4d7

【鳥取県】

◇倉吉市「令和6年度倉吉市薪ストーブ等導入事業補助金」

<https://www.city.kurayoshi.lg.jp/1727.htm>

◇智頭町「智頭町薪ストーブ等導入事業費補助金」

https://www.chizutown.jp/contents/reiki_r5/reiki_honbun/m016RG00000798.html

※対象は薪ストーブ

◇日南町「日南町家庭用発電設備等導入推進補助金」

<https://www.town.nichinan.lg.jp/soshikikarasagasu/juminka/hojohojoseido/1028.html>

◆若桜町「木質燃料の燃焼機器助成」

<https://www.town.wakasa.tottori.jp/soshikikarasagasu/kikakuseisakuka/1/kikakuseisakukakari/11/384.html>

【島根県】

◇浜田市「令和6年度浜田市再生可能エネルギー設備導入支援事業補助金」

<https://www.city.hamada.shimane.jp/www/contents/1709183810673/index.html>

◇吉賀町「住宅用木質バイオマス熱利用設備導入促進事業費補助金」

https://www.town.yoshika.lg.jp/kurashi/josei/saiseikanou/y_wbiomass.html

【岡山県】

◆西粟倉村「西粟倉村低炭素なむらづくり推進施設設置補助金」

<https://www.vill.nishiawakura.okayama.jp/wp/%E4%BD%8E%E7%82%AD%E7%B4%A0%E3%81%AA%E3%82%80%E3%82%89%E3%81%A5%E3%81%8F%E3%82%8A%E6%8E%A8%E9%80%B2%E6%96%BD%E8%A8%AD%E8%A8%AD%E7%BD%AE%E8%A3%9C%E5%8A%A9%E9%87%91%E3%81%AE%E5%88%B6%E5%BA%A6/>

◇美作市「美作市薪ストーブ設置事業補助金」

<https://www.city.mimasaka.lg.jp/soshiki/norin/shinrin/shinsei/1449808401881.html>

※対象は薪ストーブ

【広島県】

◇安芸太田町「ペレットストーブ等購入促進制度」

<https://www.akiota.jp/site/tetsuduki/1173.html>

◆北広島町「ゼロカーボンタウン推進加速化補助金」

<https://www.town.kitahiroshima.lg.jp/soshiki/14/36816.html>

◆神石高原町「ペレットストーブ等購入補助事業」

<https://www.jinsekigun.jp/town/formation/kankyousei/kankyoueisei/eco/stove/>

◇世羅町「再生可能エネルギー設備設置費補助金」

<https://www.town.sera.hiroshima.jp/soshiki/4/10059.html>

6. 公募等情報（締切順）

■長野県長野市「長野市バイオマス産業都市推進研究事業に対する補助制度」

募集期間 2024年5月31日（金）～7月15日（月）

<https://www.city.nagano.nagano.jp/n120500/contents/p005567.html>

■（一社）環境技術普及促進協会「令和5年度（補正予算）、令和6年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（民間企業等による再エネ主力化・レジリエンス強化促進事業）のうち、（2）新たな手法による再エネ導入・価格低減促進事業 ⑥熱分野・寒冷地での脱炭素化先行モデル創出事業」

二次公募期間 2024年6月18日（火）～7月16日（火）

<https://www.eta.or.jp/offering/2024/decarbon/index.php>

■環境省「国連気候変動枠組条約第29回締約国会議（COP29）ジャパン・パビリオン設置に伴う展示の募集について」

募集期間

① 実地展示：2024年6月27日（木）～7月24日（水）

② バーチャル展示（オンライン開催）：2024年6月27日（木）～9月30日（月）

https://www.env.go.jp/press/press_03354.html

■公益信託大成建設自然・歴史環境基金「2024年度助成金募集」

募集期間 2024年5月17日（金）～7月31日（水）

<https://www.taisei.co.jp/corp/society/kikin/>

■イオン環境財団「第34回イオン環境活動助成」

募集期間 2024年6月1日（土）～7月31日（水）

<https://www.aeon.info/ef/>

■農林中央金庫第11回「農中森力基金」助成事業の募集

募集期間 2024年6月6日（木）～8月5日（月）

https://www.nochubank.or.jp/news/news_release/2024/11-3.html

■（公社）環境生活文化機構「2024年度持続可能な社会づくり活動表彰募集」

応募締切 2024年8月31日（土）

<https://www.elco.or.jp/publics/index/29/>

■緑の地球防衛基金「2025年度地球にやさしいカード助成金交付団体の募集」

募集期間 2024年8月1日（木）～9月30日（月）

https://green-earth-japan.net/act_card.html

■農水省「令和6年度バイオマス産業都市構想の提案を募集」

募集期間 2024年6月20日（木）～10月31日（木）

https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/r_energy/240620.html

■（公財）滋賀県産業支援プラザ「令和6年度 省エネ・再エネ等設備導入加速化補助金」

受付期間 2024年4月30日(月)～11月29日(金)

<https://www.shigaplaza.or.jp/news/hojokin-co2-240430-1129/>

■広島県「令和6年度広島県創エネ・省エネ設備導入促進補助金の公募のお知らせ（幼稚園・保育所・認定こども園等対象）」

受付期間 ～2024年年12月20日（金）まで

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/eco/04setubihojokin.html>

■（公社）日本ナショナル・トラスト協会「第20期ナショナル・トラスト活動助成」

2024年4月1日（月）～2025年3月31日（月）

<http://www.ntrust.or.jp/subsidy/index.html>

■福島県福島市「燃油を使用しないハウス暖房設備等の導入費用を助成します」

<https://www.city.fukushima.fukushima.jp/nougyou-seisan/shigoto/noringyo/norinshinko/shisetuengei060401.html>

※2025年3月31日までに事業を完了すること

■長野県松本市「松本市再生可能エネルギー導入支援事業補助金」

<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/soshiki/51/4407.html>

■千葉県南房総市「南房総市施設園芸木質バイオマス暖房機等設置費等補助金」

<https://www.city.minamiboso.chiba.jp/0000007149.html>

■高知県「高知県林業・木材産業改善資金」

<https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2024041500181/>

■北海道「林業・木材産業改善資金」

https://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/rrm/05_rinkin/k002.html

■滋賀県甲賀市「再生可能エネルギー地域導入促進事業補助金」

<https://www.city.koka.lg.jp/6567.htm>

■滋賀県甲賀市「甲賀市公共的施設等再生可能エネルギー導入事業補助金」

<https://www.city.koka.lg.jp/7406.htm>

■南砺市「木質ペレット燃料購入者支援補助金」

<https://www.city.nanto.toyama.jp/cms-sypher/www/service/detail.jsp?id=20558>

■富山県「脱炭素社会推進資金（再生可能エネルギー利用促進枠）」

<https://www.pref.toyama.jp/1300/sangyou/shoukoukensetsu/shoukougyou/kj00012293/kj00012293-008-01.html>

■富山県「富山県中小企業脱炭素社会推進資金環境施設整備枠融資制度」

<https://www.pref.toyama.jp/1705/kurashi/kankyoushizen/kankyou/kj00006264.html>

■千葉県市原市「企業の設備投資に対する奨励制度」

<https://www.city.ichihara.chiba.jp/article?articleId=60237827ece4651c88c1880a>

■NEDO「2024年度『木質バイオマス燃料等の安定的・効率的な供給・利用システム構築支援事業／木質バイオマス燃料（チップ、ペレット）の安定的・効率的な製造・輸送等システムの構築に向けた実証事業』に係る第2回公募について」【予告】

https://www.nedo.go.jp/koubo/FF1_100405.html

※2024年8月中旬から1カ月間公募予定